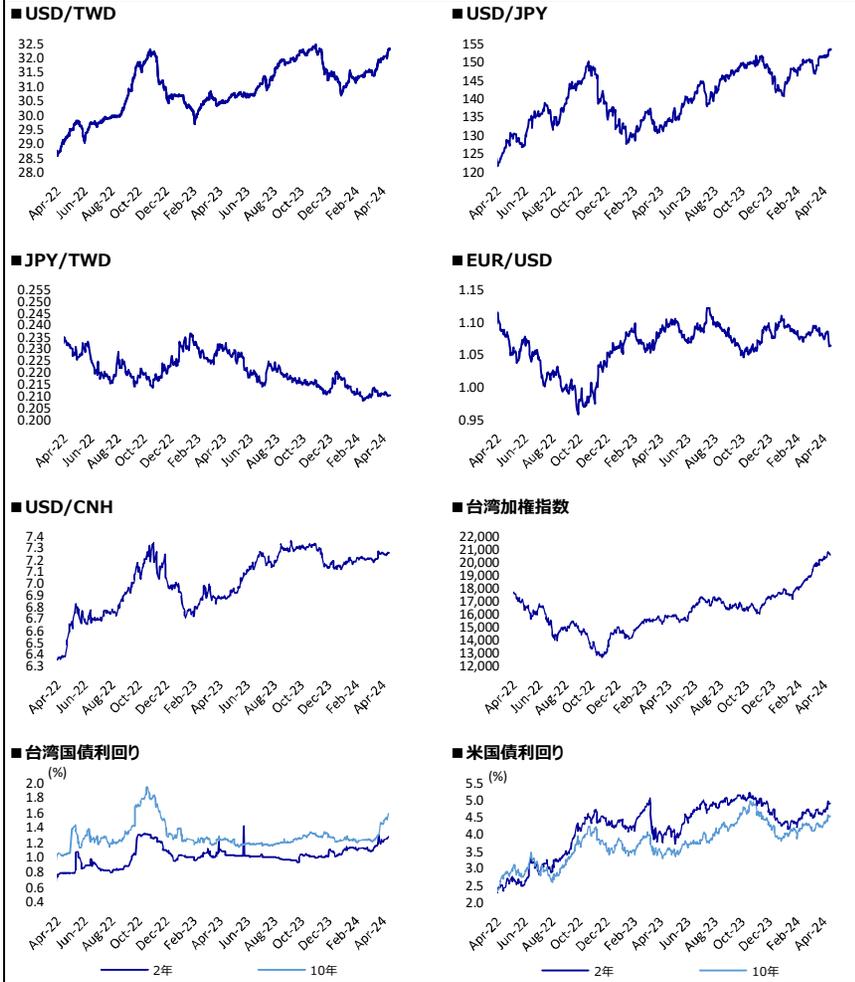


市場動向



先週の市場動向

**■ USD/TWD**  
先週のドル/台湾ドルは上昇。週初4/8は32.080でオープン後、海外投資資金送金が見られたことでドル買いが進み、32.10近辺まで上昇。4/9は翌日海外時間に重要指標の発表を控え、方向感に欠ける展開となり32.10を挟み揉み合いの推移。4/10は、海外時間に米3月CPIの発表を控え、米利下げ期待が再燃し米金利が低下に転じていたことを受けてドル売りが優勢な展開となり、一時31.950まで下落した。4/11は、前日海外時間に発表された米3月CPIが市場予想を上回る堅調な結果となっていたことを受けて、ドル買い圧力が強まり32.10台後半まで上昇。その後も海外資金送金が見られ、ドル買いが一段加速し32.20台前半まで上昇した。4/12は韓国議会選における与党大敗を受けアジア通貨売り圧力が高まり、一時32.301まで上昇。その後引けにかけては上値を押さえる動きが見られ、32.30手前で上値重く推移した。最終的には前週比0.7%ドル高台湾ドル安の32.293で先週の取引を終了。週間の外国人投資家の株式売り越し額は46.9億台湾ドル。

**■ USD/JPY**  
先週のドル/円は上昇。週初4/8は151.66でオープン後、米利下げ期待が2024年内に2回程度まで剥落する中、ドル買いが優勢な展開となるも、為替介入への警戒感から152円手前で底堅く推移。4/9は鈴木財務相より為替介入を示唆する発言が聞かれ、円が買い戻され151円台半ばまで下落。4/10は、発表された米3月CPIが市場予想を上回る結果となったことを受けて急速にドル買いが進み、心理的な節目であった152円を上抜け、153円台前半まで上昇した。4/11は米金利の高止まりを受けドル買いが継続し、153円台前半で底堅く推移。4/12もドル買い圧力が残存する中、一時153.390まで上昇し1990年6月来の高値を付けた。その後海外時間寄り付きに中東情勢悪化への警戒感が高まり米金利が低下する中、一時的にドルが売られたが、米4月ミンガン大学消費者信頼感指数において期待インフレが上昇していたことを受け、ドルが買い戻される展開に。最終的には前週比1.1%ドル高円安の153.27で先週の取引を終了。

今週の見通し

**■ USD/TWD 予想レンジ：32.300-32.600**  
今週は底堅い推移を見込む。米インフレ率が高止まりを続ける中、米利下げ期待は剥落しやすい他、地政学リスクの高まりを受けて、ドル買い圧力は強まりやすいであろう。

**■ USD/JPY 予想レンジ：150.00-155.00**  
今週は底堅いながらボラタイルな推移を見込む。米インフレ率の高止まりを受け、ドル買い圧力が強まりやすいであろう。但し、財務省による為替介入が入る場合、値幅を伴った円高が進む展開には留意したい。

今週の予定

4/15 (MON)	米3月小売売上高
4/16 (TUE)	米3月新規住宅着工件数、米3月鉱工業生産
4/17 (WED)	日3月貿易収支
4/18 (THU)	米4月フィラデルフィア連銀製造業景況感指数
4/19 (FRI)	日3月CPI

(Source) Thomson Reuters, Mizuho Bank

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。当資料に記載された内容は、事前連絡なしに変更されることがあります。投資に関する最終決定は、お客さまご自身の判断でなされるようお願いいたします。当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず、無断で引用、複製することを禁じます。